

ライフケアガーデン湘南

症例概要 利用者:80代 男性 要介護1

利用期間:令和2年4月～令和3年1月現在

主疾患: うつ病・紅皮症・認知症

経過:入居時より介護拒否あり。全身の皮膚は、紅皮症にて赤くただれ落屑が多く所々に皮膚剥離あり。臀部は褥瘡となっていた。利き腕の右手が使えず左手で食事を摂取していたためか、食事量が少なく食思不良であった。鬱状態で夜間の声出しや幻視あり不眠。夜間の声出しの音が大きく他入居者さんからのクレームとなっていた。毎日入浴を行い看護師が皮膚処置を行った。右手が動かない原因を調べるために脳神経外科受診した。不眠の要因は皮膚の痒みと鬱からくる不安と捉え往診医に相談し痒み止めと安定剤を処方してもらう。現在、皮膚の状態は改善。右手も使えるようになり食事も全量摂取できるようになった。夜間も良眠できるようになり、ご家族との絆を取り戻した事例。

内 容

令和2年4月に寝たきりの状態で自宅よりストレッチャーにて入居される。

自宅で過ごされていた時に転倒したが病院を受診せず。徐々に歩行困難となり自宅での介護が困難にて入居。ご家族の介護疲れもありご本人との関係が良好ではない様子あり。入居時、全身の皮膚は紅皮症にて赤くただれ落屑が多く所々に皮膚剥離があり臀部は褥瘡となっていた。利き腕の右手が使えず左手で食事を摂取していたが食事量が少なく食思不良であった。うつ状態で夜間の声出しや幻視あり不眠。お寺の住職をされていたので昼夜の声出しの音が大きく他入居者さんからのクレームとなっていた。

①皮膚状態の改善を目指し毎日入浴を行い看護師が処置を行った。夜間帯の痒みに対して介護職が軟膏を塗布できるように居室に軟膏を置いた。落屑が多くシーツが汚れるため入浴で居室に居ない時に清掃し清潔に努めた。

②食事量を上げるために栄養士が嗜好調査を行う。右手が動かない原因を調べるため湘南慶育病院の脳神経外科を受診。検査結果「左硬膜下血腫」と診断を受ける。転倒した事が原因との事。病院には、月に1回受診し経過観察を行った。

③夜間不眠の要因が皮膚の搔痒感と鬱からくるものと考え往診医師に相談し痒み止めと安定剤を処方してもらい服用してもらった。

入居当時は、介護拒否が強く指示も入らなかったが、介護職はその都度傾聴してご本人の意思を尊重。看護職は右手が使えるように食事の時のポジショニングを検討。栄養士には好きな食べ物を情報共有。また月に1度の受診引率の時には、昔の住職時代の話などコミュニケーション力を図り精神的な部分の距離を縮めた。生活面でもデイルームで行われるラジオ体操やレクリエーションに参加できるように時間の工夫を行った。ご家族とはご本人の性格などを伺い、ご家族の思いやストレスになっている部分の傾聴を行い介護職員と連携を図った。

結果、入居後1ヶ月で褥瘡と皮膚剥離は完治した。赤くただれていた皮膚は少しずつ改善され落屑も殆どなくなった。通院で血腫が小さくなっているのを確認し動かなかった右手は、3ヶ月で使えるようになり食事も全量摂取できるようになった。ラジオ体操やレクリエーションにも積極的に参加してくれるようになり、精神的に安定し昼夜の声出しはなくなり良眠できるようになった。そしてご家族との関係も良好となりご家族の絆を取り戻す事ができた。